

頭の研究と教育との關係

文部省視學官 横山榮次

(本篇は同君が先頃本會開設の夏季講習會に於て課外講演として演述せられしものなり)

一、緒論

私は「頭の研究と教育との關係」といふことに就て少し御話をしやうと思ふ、併し頭の研究と申しますのは人類學或は人類學の一部分として人間の頭を調べるといふことである、即ち人間の頭の大ささであるとか或は其頭の形、さういふやうに頭に關したことを總て研究することを、私が茲に頭の研究と云ふのである、其頭を研究するといふことは我々の執つて居る所の教育の仕事と關係を持つて居りますからして、其關係に付て大體の事を愛で御話しやうと思ふ。

人間の身體はどの部分でも必要でない部分といふものは無い、髪の毛などが永く延びました時には少し邪魔になります、或は爪などが少し長く伸び

八

るといふと是も邪魔になる、であるからそれを切る取らなければならぬけれども、髪の毛の如きものでも亦爪の如きものでも、矢張り我々の身體の生活には或一つの役目を持つて居りますので、必要な部分であると云はなければならぬ、どの部分でも人間の身體にいらぬ部分といふは決して無いのであるが、殊に此頭即ちカシラは最も大切な部分である、頭には御承知の通り腦髓が宿つて居りまして、さうして我々のどんな精神の働でも必ず腦髓の働と伴つて居るのである、人間の働の中で一番大切なものは何であるかと云へば、言ふまでもなく精神の働である、其精神の働に常に伴つて働く所の腦髓の宿として居る所の頭であるからして、頭を大切にしなければならぬといふことは言ふまでも無いことである。

二、我國の惡習慣

然るに我邦の習慣としては兎角頭は餘り大切にしないやうに思はれる、今日ではさうタントないけれども、從來は我々が表出るのに帽子を被らない、故に暑い時でも亦寒い時でも素頭で以て表に

出るといふ習慣があつたのである、今日でも尙ほ田舎の方に行けばあるのである、それから頭の病氣と云へば即ち頭痛であるが、頭痛は大切な頭の病氣であるからして、我々は最もそれに注意しなければならぬ筈のものである、所がナニ頭痛位は何でもないといふやうなことは能く一般に言ふ所で、無理をして造色々の仕事をするといふことがある、それから又家庭で子供を養育する場合などに於きましても、何か言ふことを聞かないといふと直ぐに親が子供の頭を擲るといふことも随分見るところである、一體に我邦では頭といふものを、或意味から言ふと大切にしないやうに思はれるのでありませうが、是は是た宜くない習慣であるからして、將來改めて行かなければならぬことであらうと思ふ。

三、精神作用と脳髓

前申した通り精神の働には必ず脳髓の働が伴つて居つて、脳髓は常に精神の働の取次所となつて居るのであるからして、精神の立派に發達すること望むには必ず健全なる脳髓を持つて居らなければならぬ、所が脳髓の發達に對しては我々は直接に何事をも爲すことが出来ないのである、即ち影響を及ぼすことが出来ないものである、換言すれば良い脳髓にしてやらうと思つても、それを良い脳髓にしてやるといふことは出来ない、持つて生れた脳髓を其儘發達させるといふことは出来るけれども、それを造り變へてやる、拵へ變へてやるといふやうなことは出来ないものである、併ながら間接の働に依つて能く注意を加へて行きましたならば、此脳髓を完全に、假令持つて生れたものを造り變へるといふことは出来なくとも持つて生れた脳髓が發達する所までは發達さして行くことが出来る、それから又結婚の方法などに依つて良い頭の子供を拵へるといふことも出来るものであるさうするには先づ頭を能く研究して行かなければならぬ、どういふ頭が良いのであるかといふ研究をして行かなければならぬ。

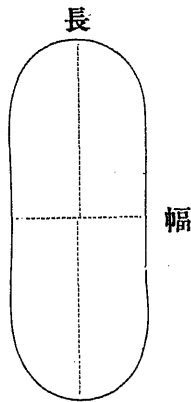
四、熱心なる頭の研究者

此の頭の研究は今日猶ほ甚だ幼稚であるが、獨逸あたりでは段々其研究が擴がつて參りまして、殊

に教育に關係ある人が追々と自分の預つて居る子供などに付て研究するやうになつて來ました、獨逸で此頭の研究で今日名高くなつて居る人はドレンデンといふ町がありますが、其町の醫者をして居る所のレーデといふ人です、此人はなかく熱心である、それからもう一人名高い人は、私が長く滞在して居りました、バーデンのカールスルエの技師である所のアマモンといふ人である、此二人の人は非常に熱心なる頭の研究者でありました、學校の生徒であるとか、兵隊であるとか、其他色々の職業の人に就て詳しい調べを致しましてそれに依つて面白い結果を得たのである、二人共非常に熱心な研究家でありまして、レーデなどは既に獨逸國民ばかりでなくして其他三四箇國の國民に就て七萬人の頭を測つたといふことです、それからアマモンといふ人には私は二三度會ひました、此人は建築か何かの技師であるが、非常に頭の事に興味を持つて居りまして、獨逸に徴兵検査がある時分に、始終検査官の後を附いて歩いて、さうして検査官が徴兵の體格検査をする場合

に、先生ちよつと時間を許して貰つて、兵隊の頭をちよいくと測つて、澤山の頭を測つた、それが爲めに自分の本職は投げ遣りにして、頭の學者になつて仕舞つた、それから伊太利の或學者からアマモンといふ人は頭を測つた御蔭で名譽博士の號を贈られて、只今博士になつて仕舞つた。

五、頭の測り方
この頭を測りますには色々な仕方がありますが、一番大切なのは頭の前方から後方に至る長さ、それから幅、此長さと幅との關係を見るのが頭の研究の中で一番大切になつて居る。



其長さ、幅との關係に依つて頭の種類を三つに分ける、第一は長頭といふ、それはどういふ工合にするかといふと、先づ長さがどの位あるかを測つ

て、それから幅を測る、さうして

圖×100

測

斯ういふ式を立てる、斯うするといふと長さを百と見た場合に此幅がどの位の割合になつて居るかといふことが分る、詰り長さを百と見た時に幅がどの位になつて居るかといふ割合が分つて来る、其割合の八十未満の頭は之を長頭といふ、それから其次は中頭、これは今の割合の八十以上八十五未満の頭を名けて中頭といふ、それから第三は圓頭、是は八十五以上、此三種類がある、此割合のことをコッブインデックスといふ、之を測るにはタスタチルキルといふものがある、是は二本の火箸を曲げて其先で頭を挿む、さうして一番距離の離れて居る所を測る、それに物差が附いて居つて、伸び縮みが出来る、詰りタスタチルキルといふもので測る、そこで頭の長さとの割合に依つて三つの頭があるとして、此割合に依つて人の賢いか馬鹿であるか、即ち人の賢愚といふものを精密に測るといふことは固より無理なことであるけれども

大體から言うた時には長頭が上等で、中頭が中等で、圓頭が一番下等である。

之を歴史の上に調べて見ると、埃及や希臘や羅馬などの段々衰へ掛つた時分には、長頭の數が非常に少なくなつたといふことです、それからシヤントルといふ學者が調べた所に依ると——是は埃及のミイラの頭を澤山測つた人ですが、それに依ると埃及のピラミッド時代の頭といふものは長頭が非常に多い、即ち七十五のインデックスを現はして居るといふことである、即ち埃及が盛であつた時分には長頭が多かつたのである、國が衰へて來る時に圓頭が多くなる、所が長頭だから皆良いといふ譯にはいかない、それは長頭に又二種類ある、前の方に長いのと、後ろの方に長いのと、二つある、前の方に長いのは宜いけれども、後ろの方に長いのは宜しくない、亞弗利加の黑人種などには後ろの方に長いのが澤山あるけれども、それは宜しくない、先刻御話したレーテといふ人は獨逸、瑞西、丁抹、和蘭、白耳義、それからホヘミヤ、それから瑞典などの諸國に於きまして、六歳から十四

歳までの男女の學校生徒に付て調査を致しました其男の子供の数が皆で二萬四千二百六十八、女の子供の数は皆で二萬九百四十七人でありました其結果を茲に書いて見ませう。

男

六才 十才 十四才 平均

頭長 一七、〇三一七、六四一八、〇六一七、五九

頭幅 一四、六四一四、八六一五、〇六一四、八四

割合 八六、〇 八四、二 八三、六 八四、四

女

頭長 一六、七〇一七、二七一七、七二一七、二二

頭幅 一四、三〇一四、〇五一四、八二一四、五一

割合 八五、六 八四、〇 八三、六 八四、三

此表に依りまして左の四つの事柄を知ることが出来る、其一つは頭の長さの方は幅の方よりも就學の間に速に伸びて来る、即ち長さの方が幅の大きくなる方よりは速である、それから二は、子供の始めて學校に来た時分には大抵圓頭のである、所が其學校を去る時分には長頭になつて來るといふことである、それから三番目は、男の子供は

入學した初めには女に較べると圓頭である、所が學校を去る時には男の子も女の子も略ぼ頭の割合、即ちインデックスが同じ數になつて仕舞ふ、初め這入つて來た時には女の方が頭の割合が良く、去る時には略ぼ同じ位になつて仕舞ふといふそれから尙ほ第四には、女の子供は男の子供よりは概して小さい頭を持つて居るといふこと、此四つの事柄を今擧げました所の表に就て知ることが出来るのである。

六、學生生徒の頭

學校時代の子供の頭といふものは、其幅よりも長さの方が速に増して來るといふことはレーテの調べた所に依つたばかりでなく、アムモン氏の調べた所でも矢張り同様の結果を得たのである、即ちアムモン氏は十一歳から二十一歳までの人を各都市に就て、五人宛毎年試みかのであるが、長さの方が段々増して來るのに較べて、幅の方の増し方が極く僅であるといふことを發見したのであります。それから今のは重に學齡の子供に就て調べたので

ありませうが、學齡以外、即ち十四歳以上の人に就ての調査は兵卒であるとか、或は中學校の生徒であるとか、又は學校に這入つて居らない普通の市民などに就て試みたのでありますが、概して學問をする者の頭は長くわつて、學問をしないで居る者の頭は短かいといふ結果を得たのである、レーデ氏がドレスデン市で調べた所に依りますと、六歳から十四歳までの男の子供の割合は八六、〇三である、所が徴兵適齡者の頭の割合は八五、一である、十四歳から徴兵適齡になるまでは除程隔りがあるからして、其間にモット澤山頭の割合が増して來なければならぬ、即ちモット長頭にならなければならぬ筈であるのに、其割合の増方が甚だ少い、是は學問しない者に付て測つたからさういふ結果になつた、それから又ドレスデン市の中學校の生徒に就て調べた所に依るといふと、十歳の子供の頭の割合は八七、一十五歳のは八五、七十二歳から二十四歳までは八三、六であつた、十年の間に凡そ三だけ増した割合になつて居る、所が普通の教育を受けない市民に就て調べたのに依る

と、僅に一二しかインデックスが増して居らない是に依つて見ますといふと、精神を働かすこと即ち學問することに依つて腦は段々前の方に延びて來るのである、勿論生れながら良い腦を持つて居るぬ人は、無理に精神を働かしても其腦が良くなるといふことはないのである、又精神を働かすが宜いといふて、過度に無理な勉強をして、それで頭を引伸ばすといふことも出來ないのである、併ながら持つて生れた所の腦の發達すべき所までは發達して行くことが出來るのである、尙ほ此頭の割合を學校の生徒の成績と較べて色々調査を致しました、是は色々細かに人々に就ては様々な原因が這入つて居るからして、成績の良い者が必ず長頭といふ譯にはいかなない、若し頭の割合と子供の成績とキチツト合つて居るものならば學校で成績調査などいふむずかしいことをしないで宜い譯であるが、さう簡單なものではない此レーデ氏の調べた所に依ると、長頭は一體に良く出來るけれども横着であるといふ、それから大きい圓頭を持つて居る人は一般に勉強家である、

併しはレーデ氏の調べた所に依つて想像をしたのであつて、一概に言ふことは出来ない、それから田舎者と都會の者との關係に付て頭を調べたアムモン氏の說に依ると、バーデンといふ國では都會地に住んで居る者は田舎に住んで居る者よりも長頭である、又大都會に住んで居る者は小都會に住んで居る者よりも一般に長頭的である、それからレーデ氏のドレスデンで調べた所に依つても同じやうな結果を得たのである、即ち二千五百四十五人の徴兵適齡者に就て調査したのであります、都會地に生れて其親も都會地に生れた者のインデックスは八五、一であつて、田舎に生れた者は八五、四である、學校生徒に付て調べた結果も矢張り其通りで、都會地の學校生徒は一般に長頭的である、田舎の子供は圓頭的である、是は詰り田舎の生活はわたりの刺戟を受けることが少くして自然腦が長くならないで、都會の方は始終過激な刺戟を受けるからして、頭が直ぐ長くなつて來るさうなつて來ますといふと、都會の生活の方は頭の教育の爲めには宜いではないか、是まで我々主

張した所の田舎の方が閑靜で、子供ほど育てるに
は却て宜しいといふことの教育上の原則は、此頭
の研究に依つて破られるのであるが、即ち田舎で
子供を教育するのは宜しくないかといふ疑が起
つて來ます、併し是は一概にさう言ふことは出來
ないといふのは、成程頭のインデックスは都會地
の方が宜いけれども、頭の大さ、分量の方は田舎
の方が大頭が多くて都會の方には小頭が多い、此
頭の大小といふことも亦非常に人間の賢愚に關係
のあることで其點から見ると必ずしも都會地の方
が宜いといふ譯にはいかない。

七、各人種と頭の關係

それから今までは田舎者と都會者との關係に就て
頭のインデックスのことを御話したのであります
が、國民即ち人種の上に就て矢張り頭の關係を調
べたのである、歐羅巴では一般に北の方の人間が
長頭であつて、南の方の人間は圓頭である、佛蘭
西人には圓頭が多くて、英吉利人には長頭が多い
殊に瑞典人には長頭が非常に多いので、頭の研究
者は獨逸で以て生るゝ者をして長頭を餘計にせん

た
 爲めに、獨逸人は瑞典人と結婚しなければならぬ
 といふことを主張して居る、獨逸人はそれならば
 どうであるかと申しますと、獨逸では北の方の人
 種と南の方の人種と二つあつて其南の方の人種は
 概して圓頭が多く、北の方の人種即ちゲルマン人
 種と稱へるのは長頭である、所が此頭の研究者の
 言ふ所に依りますと、獨逸の如きは段々長頭が滅
 つて来まして今日では純粹なるゲルマン人種の結
 構な長頭は十人に一人位の割合になつて居るから
 實に是は國の爲めに嘆息すべきことであると云ふ
 て居る。

八、頭と顔との關係

是は頭の長さ幅との關係、即ち頭のインデック
 スに付ての話であります、頭の研究は唯長さ
 幅との關係ばかりでなくして、其頭の大ささ、そ
 れから頭の高さ、顔の長さ幅との割合、長顔と
 中顔と圓顔との三つに分ける、それから脳髓の重
 さも測つて行かなければならぬ、さういふやうな
 方面から種々研究して行きます、顔のインデック
 スも矢張り頭のインデックスと同じやうな工合

に、長顔の方が概して宜いといふこと、併し頭の
 方のやうに餘り當にならぬといふことである。

それから頭の大さはどうして測るかといふと前
 に申しました幅と長さとを寄せた數で以て頭の大
 ささを測る標準として居る、或は頭の周囲を見る
 やうなこともやつて居ります、それから高さは一
 方の耳の所から一方の耳まで來る所まで、長さ
 を測つて居る、けれども其長さ丈けでは頭の長さ
 といふことを能く知ることは出來ないと思ふ、或
 は私の考では耳と耳との間の距離から頭の幅を
 差引いた方が宜いではないかと思ふ。

それから頭の大さは非常に大切なことで、矢張
 り頭の大さの良いのであるから、其大小は充
 分注意して調べなければならぬ、それから重さ
 一重さは厄介です、頭蓋に付て調べなければな
 らぬ、随分物好きな人がありまして、ヒツネルとい
 ふ人は死んだ人に就て二百三十五人腦の重さを調
 べたといふことである、無學の子供は千四百十五
 グラム、教育のある子供は千四百三十四グラム、
 事業に従事して居る者の重さは千四百五十グラム

それから小役人の腦の重さは千四百六十九グラム
それから高い教育のある者は千五百グラムあると
いふ結果を得た、併し死人に付て測るといふやう
なことはやり兼ねますから、此方の研究はやらな
くとも宜いと思ふ。

兎に角我々の頭の研究は前に申しました所の頭の
インデックス、即ち幅と長さとの關係を見ることを
中心として、それと同時に幅と長さとを加へた所
の頭の大きさなどを比較して調べて行つたならば
其位で宜からうと思ふ。

九、男女の頭の相違

そこで頭の研究が男女の違ひに依つて頭の關係
がどうなつて、居るかといふやうなことを調べま
したが、それ等も多少參考になることは少し申し
て見やうと思ふ。

男女の違ひに依つて其頭にどんな違ひがあるかと
いふことを申しますといふと、ヒツツチルといふ人
の調べた所に依ると、女の頭は概して男の頭より
は小さい、又マルジキンといふ人が其違ひに付て
調べた所に依るといふと同じ大きさの頭で以て男

の腦の方が女の腦に較べると重いといふ、それか
らレーゼといふ人の調べた所に依ると、頭の大き
さも顔の大きさも女の子供よりは男の子供の方が
概して大きい、即ち氏は四萬千四十八人の小學校
の男女の子供に付て調査を致しましたが、頭のイ
ンデックス、即ち幅と長さとの割合が兩方とも大し
た違ひがないにも拘らず、男の子供の長さの方は
女の子供のよりは三、六ミリメートル長く、又其
幅の方は女の子供よりは男の方は百、四ミリメー
トル長い、顔の高さの方も男の子供の方が二ミリ
メートル多く、其幅も男の方が一ミリメートル多
い、九歳以上になれば女の子供は男の子供よりも
急に大きくなるのであるが、それでも頭と顔とは
男の方が一般に大きい、それから女の腦髓は十六
歳から十八歳までの間に其發育の頂點に達するの
であるが男の方は二十歳で始めて其頂點に達する
十一歳から十三歳までの間に男の子供の頭が長さ
と幅と合せて五ミリメートルしか増さないのであ
るが、女の子供の方は六ミリメートルとコンマの一、
又外で調べた所に依ると七ミリメートルとコ

ンマの四増して居るといふことである、さういふやうに女の方の頭が急に大きくなるに拘らず、それでも女の頭は總ての年に於て男の子供よりは概して小さいといふこと、顔の大きさも矢張り其通りである、詰り女の頭と脳といふものは男の子供に比べると概して小さいといふことになつて居る是は頭の研究者に依ると女には子供を生むといふ大切な職分があるので、自然女に對しては男と同様に頭を働かせるといふことを許してない、それであるから女は幾ら世の中が進歩して來ても、男と同じやうに總ての仕事をしやうといふのは間違ひであつて、矢張り女は其天職に安んじて、天から與へられた所の女子の本分を盡さなければならぬといふことが頭の研究者の結論である。

そこで頭の研究者は又女教員問題に付て意見を述べて居る。是は女子が教員になるといふことは決して悪いことはない、女子は矢張り教員の職務に適して居る、併し茲に斯ういふことを條件としなければならぬことがある、といふのは御承知の通り獨逸では女教員は結婚が出來ない。結婚をすれ

ば教職を罷めなければならぬ、所が女教員でもして居るやうな者の中には、ゲルマン人種の至極結構な長頭がある、さういふ長頭を繁殖する爲めに大事な人を唯置くのは宜くないから、女教員は良いことであるけれども、それが宜いとするならば結婚することを許して女教員とするやうにしなければならぬ、そうでないとゲルマン人種が減ることになるから國家の爲めに宜しくない。

十、社會の地位に付ての比較研究

それから又頭の研究者は社會の地位に關して色々結論を下して居る、それを箇條書に申して見ますれば、其一是士官、それから一年志願兵、下士官などの頭は兵卒よりも一般に大きい、それから其二是、獨立して居る農家の子供は人に雇はれて居る所の農夫の子供よりも一般に大きな頭を持つて居る、其三是、一般に農家の子供は労働者の子供よりも大きな頭を持つて居る。其次は中等學校の生徒は普通の士民よりも大きな頭を持つて居るそれから大學の教授は普通の人の較べると著しい大きな頭を持つて居る、其次は大學の教授の中で

二十サンチメートル又はそれ以上の頭の長さを持つて居る者は、徴兵適齢者の中に在る所の數よりも多い、其次は役人といふ範圍で調べて見ると、其地位の高ければ高い程頭が大きくて長く、詰り身軀も大きい、それから其次に地位が高い程二十サンチメートル又はそれ以上の長さの頭を持つて居る人が多い、其次は頭の周圍は身軀の大きさと同じ割合には大きくならない、其大きくなり方が極く徐かである、然るに徴兵適齢者に就て見ると大きな身軀の者は小さな身軀の者よりも大きな頭を持つて居るので、詰り身軀の大きさと頭の大きさは釣合を保つて居る、是は教育の餘り高くない者は頭の發達と身軀の發達と釣合ひを保つて居るといふ結果を得た其次は子供は其身軀の割合に大きな頭を持つて居る、其次に地位が高ければ高い程其頭が同じ身軀の大きさに一般の人の頭よりは大きいといふ、社會の地位の高い所に居る人は同じ身軀の大きさの人に較べると大きな頭を持つて居る、其次は貧しい家庭の子供の頭よりも上層の子供の頭が大きい、貴族の子弟は普通の家の子弟

よりは大きな頭と顔とを持つて居る、其次に都會地の子供は田舎の子供に較べると、小さいけれども長い頭を持つて居る、田舎の子供は大きいけれども圓頭である、其次に都會地の徴兵適齢者の中で田舎に生れた者は其田舎の普通の人よりは稍や大きな頭を持つて居る、是は生れた田舎でも後に都會に住んで居る、それで田舎に住んで居る人に較べて見ると大きな頭を持つて居る、さういふ十五の事實を掲げて居る。

それからレントゼ氏は色々研究した後に、頭と社會の地位をそれを三つに概括して居る、其一つは精神上優れて居る人は多くは身軀の長いこと、頭の大きくて長いといふことに於て違つて居る。第二は獨逸の北の方の人種の要素は獨逸國民の精神界に於て重なる働をして居る、即ち北方人種が獨逸國民の重なる働をして居る、即ち長頭がして居る、其次は獨逸國內で社會の上層に立つて居る者は北の方の人種の血筋を受けて居るといふことである、是等がレーゼの研究した結果である。

十一、頭の調査と教育との調査

尙ほ頭を研究する人は其調査に基いて教育に對する色々の意見を述べて居りますが、其一二の事を茲に擧げて見ますといふと、教育の働といふものは生れながら具つて居る所の脳髓を能く發達させて行くことが出来る、併ながら其脳髓を作り換へて行くことは到底出来ないものである、何でも良い脳髓が總ての土臺となるのであるからして、良い人間を殖さうとするには良い子供を生むといふことにしなければならぬ、良い子供を持つには良い結婚をするといふことにしなければならぬ、教育者が結婚問題を餘りやかましく言はぬけれど、教育の元本は結婚に在るから、結婚の仕方を能く注意するやうにしなければならぬ、其良い結婚はどういふのであるかといふと、詰り長頭、大頭を殖すやうに結婚しなければならぬ、それで斯ういふことを云つて居ります、若し茲に若い將來有望の役人があつて、其人が健康で、伶俐で、高尚で、而も貧乏な婦人と結婚することを好むといふやうな場合であつたならば、國家は其人に結婚加俸を與へてやらなければならぬ、それから結婚

加俸ばかりではなく其人が若し子供を持つた時には子供の加俸もそれに與へてやらなければならぬ、それから役人はかりでなく教員の俸給などにも家族の關係など、いふものを能く見て、それに依つて斟酌をするといふ必要がある、即ち妻を持つて子供が出来る、而も長頭の妻でも持つて居つたならば特に俸給を増してやらなければならぬ、是はレ、セといふ人の考へである、それから生れながら非常に優れて居る者でも、家が貧しい爲めに能く教育を受けることが出来ない頭を測つて見ると誠に良い頭を持つて居るさういふことはタントないけれども、随分調べて見るとある、それは實に本人の爲めではない、國家の爲めに投げ遣りにして置くべきものでない、であるから國家の經費で特別に學校を設けなければならぬ、極く田舎の方の風景の宜い空氣の新鮮な場所の良好所に國立の學校を設けて、さういふ長頭、大頭の極く質の良い貧乏な子供、親が貧乏で發達させて行くことのない貧乏な子供を集めて、國家の經費で以て長頭、大頭保存の爲めに特に學校を立て、やらな

ければならぬといふ意見を立て、居ります。それから段々頭を調べて見ると、頭の大きさ長さ、其形などは皆違つて居る、則ち人間の腦といふものは色々様々な形を持つて居るのであるからして、學校の教育に付て同じ教材を用ひ、同じ教授の方法で同じ型に嵌めて、長かつたり短かつたりする頭を同じに教育することは無理であるからして成たけ自由に個性の發達するやうに教育を施して行かなければならぬといふ意見を述べて居ります

十二、結 論

只今の研究のことはまだ甚だ幼稚でありまして、彼國にあつてもホンの唯端緒を啓いたに過ぎないことであるが、併ながら其幼稚であるだけ又將來研究をして行く餘地が餘計に存して居ると思はれるのであるから、我々も一つ頭の研究をして、日本人には果して長頭が多いか、或は短頭が多いか、中頭が多いかといふことを能く調べて、又大頭が多いか、小さい頭が多いかといふことも調べまして、それに付て生徒の出來、不出來などの關係を調べて行つたならば、面白い結果を得るであらう

と思ふ、私が彼地に居りまして世話になりましたライといふ人が頭の研究に熱心な人で、自分の子供の頭を測り、月に二度ばかり測つて居るのであります、能く私に日本人の頭を調べたいから、是非私の所に日本人を連れて來て呉れと言はれましたが、さう誰でも引張つて行くことは出來ず、佐々木吉三郎君を連れて行きました所が佐々木氏の頭は七十二かそこらのインデックスになつて居ると思ひます、私のは七十四です、師範學校の教員の中で一番良い頭の佐々木君が來て日本人の頭は長頭が多い、日本人が露西亞に勝つたのも其譯であるといつて感心して居りましたが、それは丁度能く長頭が打付かりましたので、必ずしもさう行くかどうか分らぬ、はつきりした結論には達して居りませぬけれども、さういふことで調べて行くのが矢張り我々の研究の助けになることであらうと思ひます。

(完)

